

黄金の御所車 お う ご ん ご し ょ ぐ る ま — 上野 —

むかしから、学問、書道の神様として人びとの崇敬^{すうけい}をあつめてきた人、菅原道真^{すがわらのみちざね}が、平安時代のころ上野の車塚に黄金の御所車を埋めたといわれてきました。

その御所車は、上野の村が貧乏のどん底に落ちこみ、三軒になったら掘り返せという先祖からのいい伝えでした。

ところが千年もたった昭和の始め頃、島根県のある人が、上野を訪れ、「御所車は伊勢神宮の乾の方向に埋められている。安養寺^{あんようじ}のイヌモウチの木の下だ!」

と言うのです。

さあ村中は大さわぎになりました。

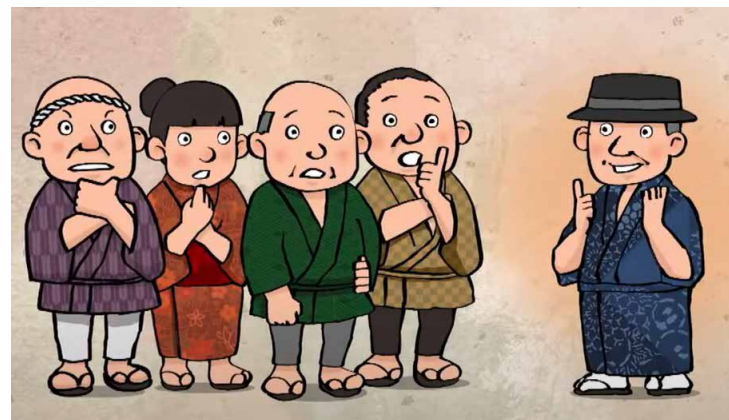
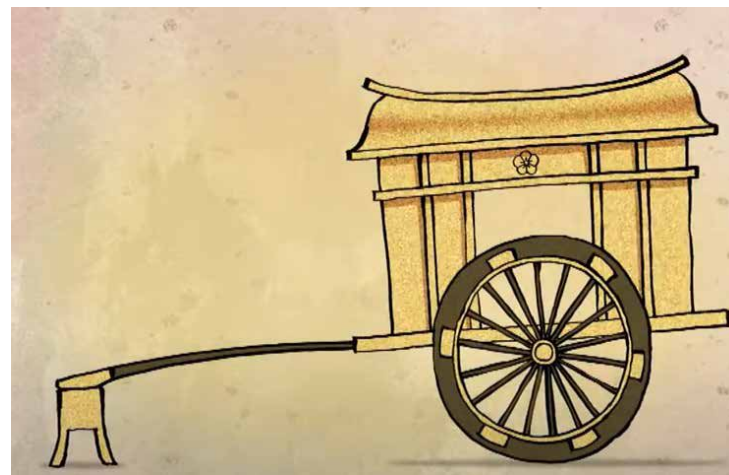
「御所車は、なんと三千万円もするとな。」

「そやけど、掘ったらいかんというし。」

「ええやないか、出てきたら、みんなで山分けしたらええ。」

と話は進みました。

あくる日から、村の若者たちは、そろって人夫にでました。





「エイコラ、エイコラ。」

掘るわ、掘るわ……。一ヶ月も掘り続けました。けれども出てくるのは石ころばかり。

「おかしいのう。」

と、こんどは安養寺の裏の竹やぶの中を掘りました。

「エイコラ、エイコラ。」

ここも赤土ばかり。

顔中赤土だらけになった若者がいました。

「やっぱり上野の村が貧乏にならんと掘ってはいかんのや。」

と、

黄金の御所車は、いまでも上野のどこかに、静かに眠ったままになっているといわれています。



伊勢街道沿いに建つ現在の安養寺

キーワード：みんな、上野、安養寺

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんな』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしようしています。